

世界が広くなるとき

生駒市立生駒南中学校 3年 宮城 モモ

1日はいつも24時間のはずなのに、なんとなく長く感じたり、短く感じることはありませんか。自分から見える世界も同じように、その広さを変えることがあると思います。

私の思う世界の広さとは、行動範囲の広さと知識の豊かさで決まります。そしてその世界の広さは生きる上でとても重要なことだと思うのです。

私の世界は最近までしばらく、狭いままでした。今住んでいる奈良県に引っ越してきてからというもの、まあ、いろんなことがあったのです。私の行動範囲は家と学校と図書館くらいで友達と遊びに行くことも、家族で出かけることも、習い事に行くこともありませんでした。でも音楽がそんな世界を変えました。1年の秋から入部した吹奏楽部で打楽器を担当していた私は、だんだんと演奏会に足を運ぶようになりました。2年の冬、演奏会を聞きに行った帰りに、なんだか初めて社会とのつながりを実感できたような気がしました。それからは講習会などにも足を運び、音楽を愛する様々な人と出会い、演奏を仕事にしたいと思うようになりました。今は実技レッスンなどで外に出るようになり、音楽に関することもそれ以外も、いろいろなことを学び、心境も大きく変化しました。私はこれを「世界が広がった」と感じました。それと同時に、私が小学校に行かなくなったときにはわからなかった「なぜ学校に行くのか」、その問いの答えがわかったような気がしました、学校は世界を広くするための機関なのではないかと。

勉強したり、会話を交わしたり、本を読むことは知識を豊かにし、知らなかったことや考え方に会わせてくれます。私達が生活の中で目にするものはなぜ、なんのためにそうなっているのか、それらを知ることで生きるのが少し楽になるかもしれません。そして、学校には様々な出会いがごろごろ転がっています。それはもしかすると先生、友人、仲間、自分の夢、大好きななにかとの出会いかもしれません。ときどき必要ないと言われてしまう、実技教科や古文の勉強、学校行事の数々も、運命の出会い、それかそのきっかけになる可能性をはらんでいるのです。嘘みたいな話ですが、わたしは国語の授業で漢詩について学習した際、その表現の独自性と豊かさに惹かれ、いろいろな作品を読む内、もうこれで一生生きていける！と思うほどに素晴らしい言葉に出会うことができました。部活も最初から音楽のために入部したわけではないので、どちらも言わば偶然の出会いにすぎないのです。

私は学校でもこの社会全体でも、すべての人が自分の世界を広くするために頑張れる状況があれば一番いいのではないかと考えています。それはすなわち経済的な理由、先天性、また家庭の事情、どんな理由でも経験の機会が奪われないこと、社会的に孤立し、つらい思いを抱える人がいないということ、誰もが互いに助け合い、成長していけるということではないでしょうか。そんな状況ができれば、誰から見ても世界は広く、豊かなものになるはずで。反対にもしその状況がなければ、誰かの世界はずっと狭いままで、その閉塞感はいつしか世の中への絶望や憎しみに変わっていくのではないかと考えています。多くの人がそうして過ごせば、世界は本当に狭く、苦しくなっていくでしょう。でもこれはあくまで、まだまだ狭い中学3年生の世界の中で考えたことです。だから私はもっと学び、考えていきたいのです。色々な考えを聞きたいのです。

あなたは、どんな社会を作っていきたいですか？